

メイン企画（シンポジウム）  
テーマ：「戦後日本は、どう人権を育んできたのか」

SNSなどのネットコミュニケーションを通じて偽誤情報が拡散されるなど、プライバシーの侵害、差別意識による流言、誹謗中傷による人権侵害は、今や重大な社会問題となっています。

憲法前文では「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と宣言しています。このことは、どこに生まれた誰であっても平等に保障されるべき権利を有し、尊厳を感じながら生きていくことができる社会を意味します。

戦後の日本は、諸大国と肩を並べようと経済発展をめざしてきました。平和憲法のもとで民主主義と人権が確立し、戦前の封建的思想は無くなつたと思われていますが、こと「人権」に関してはどうでしょう。「現代の奴隸制度」ともいわれる外国人技能実習制度、女性差別や障害者差別、ヘイトスピーチ・ヘイトクライムなど、差別や偏見、排他的な考えが大手を振って闊歩しています。世代を越えて「人権」意識を培っていくことは、戦争の惨禍を直接知る人々が少なくなる中、次なる惨禍を生み出さないために、なによりも大切なことです。現代日本に必要な人権感覚について、提起とクロストークを交えて、シンポジストの皆さんとともに考えます。

コーディネーター：金子匡良（法政大学教授）

パネリスト：山花郁夫（立憲民主党衆議院議員）

パネリスト：阿久澤麻理子（大阪公立大学経営学研究院都市経営研究科・教授）

パネリスト：海渡双葉（秘密保護法対策弁護団・事務局長）

